

コード No. 10349F

**Anti-Human
c-Kit (12A8) Mouse IgG MoAb (Frozen)**容量 : 100 μ g (1.0 mg /mL, 0.1 mL)
ロット No. :

はじめに : *c-kit* 遺伝子はもともとネコ肉腫ウイルスの癌遺伝子である *v-kit* の細胞ホモログで、マクロファージコロニー刺激因子 (M-CSF) あるいは血小板由来増殖因子 (PDGF) に対するレセプターと類似の構造を持ったチロシンキナーゼ (c-Kit) をコードしています。c-Kit は SCF (Stem Cell Factor) と結合することによって活性化し、それが c-Kit の細胞質内のチロシンを自己リン酸化し、Phosphatidyl-inositol 3-kinase などの基質と結合するようになることが知られています。近年、c-Kit がマスト細胞と Cajal の介在細胞 (ICCs) から発生するヒト腫瘍に関係していることが報告され注目されています。GIST (Gastrointestinal stromal tumor) における *c-kit* 遺伝子の関与においては、消化管の GIST のほとんどが c-Kit を発現し、平滑筋腫や神経鞘腫では c-Kit の発現を認めません。ICCs がヒトの胃腸の壁を構成する細胞の中で唯一 c-Kit と CD34 を発現しているという事実から、GIST は ICCs 由来であると考えられています。本モノクローナル抗体は、ウエスタン ブロッティング、免疫沈降試験により、c-Kit を認識し、c-Kit 発現細胞に対する FACS 解析も可能です。また、本抗体の添加によって、リガンド結合に依存的な c-Kit のリン酸化が誘導されないことも確認されており、中和抗体として使用していただけます。

免疫抗原 : ヒト c-Kit の細胞外領域のリコンビナントタンパク質

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ(培養上清)
(X63-Ag8.653×BALB/c マウス脾臓細胞)クローン名 : 12A8 サブクラス : IgG₁

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : PBS に溶解したものを凍結 (BSA および NaN₃ 不含、無菌分注)

保存方法及び安定性 : -20℃保存 2 年間安定

適用 : 中和活性あり (c-Kit 発現細胞株において、20 ng/mL のリガンド結合に依存的な c-Kit のリン酸化を指標とした時、10 μ g/mL の抗体添加により中和活性確認): ウエスタン ブロッティング 1~5 μ g/mL にて使用可能
: 免疫沈降法 3~5 μ g/mL にて使用可能
: FACS 解析 0.1~0.5 μ g (1×10^5 Cells あたり)にて使用可能

特異性 : SY 細胞を用いたウエスタンブロッティング法にて特異性確認